

英米文化学会会報 第32号

SES NEWSLETTER

第15回大会のお知らせ

標記の大会を下記要領にて開催します。

◆開催年月日：平成9年9月6日（土）

◆開催場所：法政大学市ヶ谷校地 58 年館 JR市ヶ谷駅・飯田橋駅徒歩4分

〒102 千代田区富士見 2-17-1 (本会報に同封の大会プログラムに地図がありますので参照してください)

目 程

受付開始：9：30

挨拶：10：00－10：10 英米文化学会会長 名和 雄次郎（拓殖大学）

研究発表：10：10－15：20

1. 攻撃としての「笑い」 赤堀 志子(昭和女子大学大学院)
司会 岸山 睦 (昭和女子大学)
2. 高校英語検定教科書オーラル・コミュニケーションBのタスク分析—第四分科会研究報告
生内 裕子(東京女学館短期大学)・太田 晴美(目白学園短期大学)・川口 恵子(芝浦工業大学)
司会 平川 敦子(城西大学)
3. 日・英色彩語の意味分析 野中 博雄・齋 孝則(桐生短期大学)
司会 亀山 孝(共愛学園高校)
4. 英語教育における学習者の母国語使用 柏木 厚子(昭和女子短期大学)
司会 木村 みどり(文京女子短期大学)
5. ハード・ボイルド・スタイルの本質
--「二つの心の大きな川」に見られる「癒し」と「回復」-- 高取 清(文京女子短期大学)
司会 佐藤 成男(玉川大学)

講演 15：30－17：00

アメリカの文化多元主義について 越智 道雄(明治大学教授)

当日会費：一般500円 学生300円

大会事務局：佐藤英語研究室 〒101 千代田区神田駿河台1-8-13 日本大学歯学部

TEL 03-3219-8160(直)

学術委員会から

『英米文化』第28号の原稿の締め切りは10月末日ですので『英米文化』第27号巻末の投稿規定に従って田辺治子宛（下記）にご投稿ください。（田辺治子）

〒

第15回大会発表レジュメ

1. 攻撃としての「笑い」 赤堀 志子
ユーモアから生み出される「笑い」の研究の軌跡を辿っていくと、アリストテレスやプラトンに

まで遡ると言われる。ギリシアの生んだ二人の哲学者は、笑いの持つ攻撃的な側面に焦点を当て、笑いとは他人の弱点をあざ笑う快感からこみ上げる感情の表現だと考えた。そこで、本発表では、ユーモアの攻撃的な側面について、主に言語的な面から分析する。ただし、ユーモアというものを、言語学のみで語るのは難しく、心理学、社会学、文化人類学、といった様々な分野を絡めていく必要がある。そこで、1996年度の米大統領選に深い関わりをもつ四人の政治家、ビル・クリントン、ヒラリー・クリントン、ボブ・ドール、そしてニュート・ギングリッチの発言したユーモアにデータを限定し、ユーモラスな発言をした者の背景、発言時の個人および社会状況、笑いの犠牲者にされた者あるいは出来事といったコンテクストを考慮に入れて分析を試みたい。

2. 高校英語検定教科書オーラル・コミュニケーションBのタスク分析—第四分科会研究報告

生内 裕子・太田 晴美・川口 恵子

言語習得やコミュニケーションにおけるリスニング能力の重要性や特殊性が多く、第二言語教育研究者によって指摘され、聴解過程の理論・実証的研究が進められてきている。一方、日本の中・高等教育ではオーラル・コミュニケーションが必修科目となり4年目を迎える。

この発表では、リスニング技能の養成を目指した文部省高校英語検定教科書オーラルB 16冊を、現在の英語教育の聴解理論の視点より分析した。教科書は音声教材（インプット）とタスクの分析が考えられるが、今回はタスク分析のみを行っている。

本発表では現在もっとも一般的な聴解の理論および、指導理論を簡単に紹介し、分析の結果を報告、考察を加える。各教科書の編集方針がどう異なるか、また各教科書の特徴を明らかにすると同時に、さらに、リスニング能力の養成を図るためにはどのような点が考慮されることが望ましいのかを考える。

3. 日・英色彩語の意味分析

野中 博雄・斎 孝則

本発表では、日本語と英語の色彩語の意味分析に焦点を当て、両者間にみられる共通性や非共通性の要因を検討する。

まず、日本語と英語の色彩語（白、黒、赤など）の象徴的意味を「始源的意味（理論的に仮定した、派生の最初となる意味）」からの連想による派生として連関図にまとめる。（日本語担当：野中、英語担当：斎。）その結果、以下の項目において、共通点、相違点が明瞭になる。

- (1) 始源的意味の共通性と非共通性。
- (2) 両言語の色彩語の持つ象徴的意味の相違。
- (3) 両言語の色彩語の持つ語義数の相違。
- (4) 両言語の色彩語の連想グループの分布の相違。
- (5) 上記(1)~(4)の項目において類似性の高い色彩語と、類似性の低い色彩語。

さらに、これらの現象の要因の説明を試みることにより、日本語と英語の色彩語の特徴を明らかにする。

4. 英語教育における学習者の母国語使用

柏木 厚子

イギリス、アメリカを中心として発展してきた現代の英語教授法では monolingualism（教室内では英語のみを使用）が原則とされている。授業中の学習者の母国語の使用は英語の習得の妨げになるとされ、翻訳は全て悪であるとの考えから英和辞典の使用も禁止する教師も多くいる。英語を母国語としない教師も英語のみを使用して教えることが当然とされ、実際の現場とのギャップに苦しむケースもよく見られる。この発表では、こういった monolingualism のメソッドは歴史的にいつ頃から、またどのような理由で「主流」となってきたのかを探るとともに、果たして monolingualism

は確固とした教育理論に基づいたアプローチであるのかどうかを考証してみたい。

5. ハード・ボイルド・スタイルの本質

—「二つの心の大きな川」に見られる「癒し」と「回復」— 高取 清

ヘミングウェイ文学の特徴であるハード・ボイルド・スタイルの本質は、「外面のリアリティー」と「内面のリアリティー」が表裏一体となって見事に一致することにある。これをヘミングウェイ自身は氷山に譬えている。氷山の動きが堂々としているのは、海面に出ているのが全体の八分の一で、残りの八分の七は海中に没しているからである。この事を文学に当てはめると、言葉で表現されている真実は全体の八分の一で、残りの八分の七は、表現された言葉の陰に隠されている。その隠された真実を読者に過不足なく理解させる技法がハード・ボイルド・スタイルである。これは極めて高度な技法である。

そこで「二つの心の大きな川」を取り上げて、表面の簡潔な文体の陰に隠された真実である「癒し」と「回復」への努力について綿密に検討し、合わせて作品の傑作性にふれてみたい。

分科会関連

去る7月25日、第二分科会の先生がたが翻訳された本（『現代アメリカ小説』）が出版されました。おめでとうございます。訳者を代表されて佐藤成男先生が原稿をお寄せくださいました。

『現代アメリカ小説』の翻訳を終えて 佐藤成男

学生時代、文学史の授業が「今生きている」時代の文学を扱えないもどかしさを経験したのは私だけではないでしょう。これが、本書を翻訳した動機の一つでした。この本は、我々と同時代に生きる作家をアメリカ小説の伝統の中に位置づけ、情報を豊かに盛り込んで解説しています。本書の大きな特徴は、著者が戦後のアメリカ小説の流れをリアリズムと小説の実験の対立の中に見、それがどのように収斂するかを描いている点にあります。訳書には原著にはない「重要用語解説」「戦後アメリカ主要作家解説」「作品年表」を付けました。研究室や図書館に備え、広く学生に読まれれば、訳者全員の喜びとするところです。今回このような機会を与えて下さった会員の皆様に感謝いたします。

事務局から

1. 学会創立30周年記念式典ならびに祝賀会について

来る11月15日（土）は、例会終了後の午後3時から、英米文化学会創立30周年を記念して、記念祝典ならびに祝賀会を開催します。その概略を下記の通り、お知らせします。詳細については、次回の会報に掲載します。

★場 所：日本出版クラブ会館 二階「きくの間」（JR 飯田橋下車、神楽坂を上り毘沙門天の次の角を左折して道なりに進む）

★平成9年11月15日（土）

15:00～ 例会

18:00～ 式典と祝賀会

17:30～ 受付 同 三階「鳳凰の間」

2. 学会編纂の書籍の配布について

現在までで、2冊の学術書籍が、英米文化学会編として出版され、会員のお手元に届いていると

思います。発送の手違いから不着の場合は、ご遠慮なく事務局までご連絡ください。出版の詳細については、学会ホームページにも掲載されております。

<http://www.threeweb.ad.jp/~shakey23/indexj.html> をご覧ください。

3. Internet 関連ニュース

(1) 学術情報センター (NACSIS) が試験的に、以下のサイトで図書 (書籍、雑誌) の検索サービスを始めました。無料で国内の図書、雑誌の検索ができます。雑誌の検索ができるところが「みそ」なのでしょう。一度お試しください。 <http://webcat.nacsis.ac.jp/>

(2) 米国のアマゾン書店は、現在最大規模の書店となっていて、日本から検索・購入が可能です。ハードカバーの書籍はすべて3割引、ペーパーバックは40万タイトルが2割引となっており、最高4割引までのようです。この会社の「売り」は、検索対象が250万タイトルだそうです。

<http://www.amazon.com/>

学会のホームページから直接ジャンプできるようにしてあります。

(3) インターネット上で数多くのサイトがある電子テキスト (コンピュータ上で表示できるテキスト) の英文学関係で、こじんまりして使いやすいのが、

<http://un2sg1.unige.ch/www/athena/html/authors.html>

にある ('ch' なのでスイスと思われる) 電子テキストライブラリでしょう。著者のアルファベットごとのテキストリストで 'A' をクリックすると、7月30日現在で、191点が利用可能でした。研究している作品のテキストがあればいいですね。学会のホームページから直接ジャンプできるようにしてあります。

(4) メールアドレスをお知らせください

近年メールアドレスをお持ちの会員が増加しておりますが、まだ学会の方にご連絡をいただけない場合には、至急メールを入れてください。各大学の学内 LAN からインターネット経由でメールの送受が可能ですし、NiftyServe、Biglobe などの BBS からインターネットメールが可能ですので、アドレスをお持ちの節は、必ず一度は、shakey23@tky.threewebnet.or.jp までご連絡ください。会員のメールアドレスリストの送付、ホームページの改定時のお知らせなどが受けられます。学内 LAN からインターネット上のアドレスへの通信は、通常のアドレスの他に入力する文字を必要とする場合がありますので、学内の担当者にご確認ください。

4. 顔写真のご提出について

顔写真未提出の場合には、先の会報掲載の要領にて事務局宛にご送付ください。

5. 新入会員

6. 退会

英米文化学会会報 第32号 (年4回発行)

編集・発行：英米文化学会編集委員会＝池田 広子、小川 喜正、岸山 睦、武井 朗子、
中村 豪、宮崎 敬子、山根 正弘

発行責任者：中村 豪 〒